

“道徳授業「ルールとマナー」の感想(1 組)”

東京都千代田区の役所が地域の環境をより良くしようと住民と共に取り組んだ出来事が描かれている。役所は最初、住民の中にあるマナーを大切にしようとする心を向上させようと取り組んだ。しかし、改善につながらなかった。そこで、全国で初めての「生活環境条例」を定め、ルールを厳しくした。結果、地域は目に見えて改善していったが、一方でルールをかいこぐるようにして違反するものは後を絶たなかった。

授業の感想

『この授業を通して、改めて掃除の大切さに気づけました。私は家の掃除などをする時、疲れたなと思ってやりたくなかったのですが、後から考えてみると、やっぱり部屋が汚いと気分も悪くなっていくなと感じました。このことからきちんと掃除の大切さを知って、もっと熱心に取り組みたいと思いました。掃除にはきちんとやる意味があると改めて教わりました。』

『今まで掃除は「しろっ」て、先生に言われるからやるという考えでしたが、今日この話を聞いたり、班の人や他の班の人の意見を聞いて、もっと掃除をきちんとしないと、と思いました。今日から先生の言っていた我々はなぜ掃除をするのか、今日の授業のことを心に入れて掃除をしたいです。』

『自分はゴミを外で捨てないようにしようと思いました。「割れ窓理論」のようにみんながゴミを捨てると治安が悪くなるので、そのようなことにならないといいなと思いました。海外の国のたばこの吸い殻でやるアンケートのやつを作った人はとても賢いと思いました。』

『今まで掃除はやっていましたが、少し面倒くさく感じる事がよくありました。しかし、割れ窓理論などのことを考えると、少しでも汚いところがあって、そのままにしておくとその汚れが違う場所にも出てきて、最終的には人が入りたくなくなってしまう、気持ちも落ち着かない場所になり、荒んでしまうということがよく分かりました。そのため、今後は自分のためにも、他人のためにも、面倒くさ
がらずにやっていきたいです。』

『割れ窓理論というものを知らなかったので、とても勉強になりました。2 年生最初の道徳でとても面白かったし、良かったです。割れ窓理論に質問①の自分の答えが完璧に当てはまっていた少し怖かったです。割れ窓理論の左のページのニューヨークの取り組みで、小さなものが積もっていくとやがて大きなことにつながるのだなと、まさに「塵も積もれば山となる」状態だなと思いました。今回の道徳は特に班の人との意見の交換がすごくおもしろかったし、道徳に答えがありました。』

よのなかルール 1 <「メシを食える大人になる！よのなかルールブック」高濱正伸監修>

「いいことを言うよりも、よい行動とる。」

よのなかでは、ことばではなく行動で、
「どんな人か」が判断される。
立派なことを言うよりも、
ゴミが落ちていることに気づいたらサッと拾う、
そんなちいさなことを大事にしよう。

